

ロマンとガマンで全国レベルの社員を育てる

ジョイングループ (山形県山形市)

人生には幾つかの節目がある。生命の誕生から終焉まで、出会いと別れ、そんな節目に関わる仕事はいくつかあるが、その最たるものが冠婚葬祭事業ではないだろうか。山形市にある「ジョイングループ」は山形県最大の互助会組織として、地域に密着したサービスを展開している。

結婚披露宴などを執り行うパレスグランデール、グランデール寒河江を運営する株式会社パレス平安、県内10カ所のセレモニーホールを運営する株式会社平安典礼、さらには介護用品の販売と在宅ケアサービスを行う株式会社あつぷるケアサービスと人生の節目に関わる業務を幅広く手掛けており、昨年には創立50周年を迎えた老舗企業である。

今回は、ジョイングループの代表取締役社長である武田義弘氏に人材育成の秘策を伺った。

■スタートは七夕さまに願いを込めて

ジョイングループの始まりは、先代社長の父・武田有弘氏の基打ち仲間、ご近所に居住まいしていた大久保傳蔵山形市長（当時）の一言だった。

「君、都会では互助会といって会員制で冠婚葬祭を請け負っている制度があり、若い人の関心と呼んでいるようだ。やってみないか」と勧められ、先代社長が一念発起して、ジョイングループの前身となる「山形県新生活互助会」を立ち上げたのだという。創



代表取締役社長 武田義弘氏



パレスグランデールの披露宴会場
明るく華やかな雰囲気です新しい門出を祝うことができる

立は、「織姫彦星が年に1度出会う七夕にあやかりたい」との願いを込め、昭和37年7月7日とした。武田現社長が20歳の時だった。

創業当時の山形には冠婚葬祭で一貫したサービスを提供する企業はなく、挙式から料理、衣装、写真撮影、引き出物まで提供する互助会は評判となって順調に会員数を伸ばした。創業から7年後には直営の総合結婚式場である「平安閣」を、昭和58年には現在地に「パレス平安（現パレスグランデール）」をオープンさせた。

葬祭部門も昭和40年に地元の葬祭社を譲り受けてスタート。平成10年に社名を現在の株式会社平安典礼に改め、平成13年には県内で最初の総合葬祭場「セレモニーホール山形」を開堂している。

介護部門では、昨年、社会福祉法人慈福会が認可を取得し、特別養護老人ホーム「あつぷるの里 久保田」を開所。より一層利用者に寄り添った介護サービスの提供をスタートさせている。

■山形で全国レベルのサービスを

ジョイングループは昨年（2012年）、創業50周年の節目を迎えた。それについて武田社長は「お客さまをはじめ、多くの関係者の皆さまのご協力があったことです」と感謝の思いを語る。

「50年を振り返ってみると、さまざまなことができました。その経験から、経営者として必要なものは

一般的に言われている“人・物・金”の3つに加えて“情報・情熱”も必要だと痛感しています」

「手前みそになりますが、私が大切にしている“片手にソロバン、片手にロマン、背中にガマン”という言葉の中にはこれらの要素が含まれています」

「特に、人材育成にはロマンとガマンが必要だと思います。人は一朝一夕では育ちません。だからといって、何もしなければレベルの低いサービスしかできない。時に褒め、時に叱り、経営者自らがロマンを語り、そして、成長するまでガマンすることが必要なのだと思います」と武田社長は言う。

また、武田社長は「常に全国レベルを意識して、外部の研修に参加させたり、全国レベルの資格取得を義務付けたりさせており、“地方だから”“山形だから”サービスのレベルが低いと思われないように教育を行っています」と胸を張る。

そんな武田社長のロマンとガマンが一つの形となって結実した好例が2011年にあった。

■Good Wedding Award2011グランプリ

結婚情報誌最大手「ゼクシィ」を企画運営している株式会社リクルートマーケティングパートナーズという会社がある。その会社の調査・研究機関であるリクルートプライダグ総研が、「いい結婚式のプランニングコンテスト」として、「Good Wedding Award」という大会を開催している。その記念すべき第1回として開催された2011年大会において、パレスグランデールの小島重治さんが見事グランプリの栄光に輝いたのである。

全国各地から集まったウェディングプランナー240名の頂点に立った小島さんのウェディングプランは「絆」をテーマにしているが、驚きのポイントがあった。

それは、あえて「新婦から亡き父親への手紙を読ませなかった」ことだ。新婦は初め、亡き父への思いを手紙にして披露宴で読みたいと希望していたという。それを小島さんは「やめてほしい」とアドバイスしたという。

「新婦さまはお父さまがいない結婚披露宴はやる意味がないと思っていらっやっやっ、非常に消極的で後ろ向きでした。しかし、私は、“結婚披露宴は亡くなった方のためにやるものではなく、これから新しい家庭を作っていく2人を周りの皆さんから祝福していただく、そういう前向きなステージのはずだ”と思っていましたから、“亡くなられたお父さまへの尊敬の念を残しつつ、過去に区切りをつけ、新しい絆とともに前向きにスタートを踏み出してほしい”と思い、そのように提案し、最終的に受け入れ

ていただきました」と小島さんは説明してくれた。

これまでの結婚式では、お客さまの意向を最大限に受け入

れるのが当たり前で、それが最善とされてきた。それに対して小島さんのプランニングは新郎新婦にとって最良なもの何か？をしっかりと考え、提案している。実は真の意味でお客さまに喜ばれるのはこのようなプランニングなのだ。

小島さんは現場に出ながら、後輩の指導も任されており、全国レベルのウェディングプランナーを育てる役目も担い、業務にまい進している。

「非常にありきたりですけど、お客さまに喜んでいただくことが嬉しいし、働く原動力になっています」という小島さん。その笑顔は親しみやすさと安心感が同居して輝いていた。



パレスグランデール
婚礼事業部 小島重治さん

■100年企業を目指して

50周年の節目を迎えて、社員のレベルが全国で認められたことを武田社長は高く評価しているが、それに満足せず、兜の緒を締め直している。「まだまだこんなものじゃない、もっとやれるはずだ」という飽くなき情熱＝ロマンが武田社長を突き動かしているように思えた。「背中にガマン」とは言うものの、武田社長の顔にはガマンの辛さが全く見えなかった。その理由は、厳しい環境が続いている中でも、社員の、そして会社の成長を日々実感しているからなのだろう。ジョイングループの100年企業に向けたエターナルストーリーは、冠婚（よろこび）、葬祭（うやまい）、福祉（やさしさ）を三本柱として今、新たな一歩を踏み出している。

（フィデア総合研究所著）

ジョイングループ

代表取締役社長 武田 義弘

本社：山形県山形市荒橋町1-21-30

設立：昭和37年7月

従業員：376名

グループ会社：

株式会社 ジョイン（互助会事業）

株式会社 パレス平安（婚礼事業）

株式会社 平安典礼（葬祭事業）

株式会社 あつぷるケアサービス（介護福祉事業）

株式会社 のぞみ観光バス（一般貸切バス事業）

株式会社 味暦（仕出し料理事業）